

2004 年度 国際学部
卒業論文

化粧品がもたらす
社会的影響とその課題

宇都宮大学国際学部
国際社会学科
石原 佳菜子

要約

本稿は、化粧品を切り口に社会を見たときに、社会の動きと化粧品がどのように関わってきているかをテーマごとにまとめたものである。

第一章で化粧品業界の歴史の推移から考えていく。化粧品業界独自の再販制度はなぜ作られたのか、歴史から考え、その再販制度や様々な規制緩和により、化粧品業界が優遇された業界であることを考えた。また、オイルショックの際にも化粧品業界は大きな打撃を受けずにむしろ発展したことから、化粧品は過去の歴史の中で常に需要のある存在だったと考えられた。このように常に需要の高い業界として発展してきた化粧品業界の流通の仕組みが作られてきた経緯や変化、海外進出など日本経済の発展とともに変化してきた化粧品業界の推移を明らかにする。第二章では、外資系メーカーの日本進出や、日系メーカーの海外進出の歴史をより詳しく振り返り、外資系メーカーの進出に影響され日本のメーカーが販売経路の仕組みの強化をし、制度品流通が強くなってきた経緯を踏まえ、世界中の化粧品メーカーが今注目している中国市場を考えるヒントを見つけていく。第三章では、日本における5つの化粧品流通の特徴をふまえ、現在の化粧品流通がクロス参入しているきっかけをさぐっていく。第四章で制度品流通・一般品流通・訪問販売・通信販売の課題を探り、それぞれの化粧品流通の展望とより発展していくための方法を考える。また、化粧品メーカーとデパートという異業種の二社が手を組んで新たな流通のシステム作りに取り組んでいる例を挙げる。以上で見えてきた課題をふまえ、化粧品が社会に与える影響の展望として、第五章で高齢化社会・男性の美容意識への関心・流通のクロスから生まれた新たな販売チャネル・インターネット通信販売・消費者への知識供給という5つの具体的な事例を挙げ、化粧品が与える社会的影響を考える。

このように、化粧品、ひいては化粧品産業の構造について詳しく知り、その中で見えてきた問題点や新しい動きの展望を考えることで、化粧品が私たちの生活、つまりは社会にどのような影響を与えているか明らかにしたい。

< 目次 >

はじめに	1
第一章 化粧品業界の軌跡から見る化粧品	
第一節 化粧品の定義	3
第二節 化粧品業界の軌跡	3
第二章 化粧品業界とグローバルマーケティング	
第一節 海外ブランド進出の歴史	8
第二節 日本の化粧品メーカーの海外進出の歴史	8
第三節 新たな化粧品市場 - 中国市場	9
第三章 化粧品流通の特徴	
第一節 制度品流通の特徴	11
第二節 一般品（セルフ販売製品）流通の特徴	12
第三節 無店舗販売（訪問販売）流通の特徴	13
第四節 無店舗販売（ダイレクトセールス・通信販売）流通の特徴	14
第五節 業務用品流通の特徴	15
第四章 化粧品流通、今後の展望	
第一節 制度品流通の展望 カウンセリングからトータルビューティーへ	16
第二節 一般品（セルフ商品）の展望 幅広い世代向け戦略	16
第三節 訪問販売の展望 高齢化社会と化粧品	17
第四節 通信販売の展望 ボーダレス化・グローバル化	18
第五節 流通システムの新しい動き	19
第五章 社会の動きと化粧品の位置付け	
第一節 高齢化社会における化粧品の位置付け	20
第二節 制度品としての男性用化粧品の発展	22
第三節 化粧品新市場・コンビニエンスストアとドラッグストア	23
第四節 世界に広がるインターネット通販	24

第五節 消費者への知識供給	26
おわりに	28
あとがき	29
参考資料・参考ホームページ	30